

## 兵庫県におけるツツイトモの新産地

水田 光雄\*

Mitsuo Mizuta : New locality of *Potamogeton panormitanus* Biv.  
in Hyogo Prefecture

### はじめに

筆者は先に、神戸市東灘区南部埋立地（通称：六甲アイランド）において、公園の付属施設として作られた人工池で、我が国の保護上貴重な植物（絶滅危惧ⅠA類）である本種の生育について報告した（水田，1999）。その後、神戸市の担当課へ本種の生育について通報した。現在、特別な保護啓蒙の動きはないものの、当地で生育を続けている。

このような状況の中で、今回、本県において新たに本種の生育が判明したので、新産地として報告する。報告にあたり、本種の同定をしていただいた神戸大学の角野康郎先生にお礼申し上げます。



図1. 兵庫県のツツイトモの分布図



図2. ツツイトモの生育地（2000年6月10日撮影）

### 所在地及び生育環境

当該種は、伊丹市瑞ヶ丘4丁目瑞ヶ丘公園内で、当該公園の付属施設として作られた、幅1～2m、全長500m程の水路で生育している。この水路は、コンクリート製で深さ20cm程度、底には土砂が堆積しており、流れ込む水は、隣接の瑞ヶ池の水が循環するように作られている。この水路に沿うように、遊歩道が作られ、「たんたん小道」と称し市民に親しまれている。瑞ヶ池は、当市の飲料水や農業用水等に使用されており、全く水草類の生育がない。また、西側の昆陽池と並び水鳥が多数飛来するため池である。なお、当該公園の水路は1988年3月に作られ、市の公園緑地課が管理し、冬季（12月～1月）には清掃を兼ね、毎年、水が抜かれるなど特殊な環境である。

### 発見のいきさつ

1991年4月、転勤とともに伊丹市民となった。

\*神戸植物防疫所

当時、私の休日はフィールドワークとして市内及び周辺地域の植物調査（特に帰化植物、水草）を実施していた。

今回生育の見られた「たんたん小道」の水路は、当時数回は調査していたものの、乏しい同定能力に加え、まさか絶滅危惧種であるツツイトモが生育していることなど考えもしなかった。形状からホソバミズヒキモの浮葉のないものと思いこんでいた。その後も数回当地へ出向いていたが、認識できずにいた。

1999年10月、この水路をとおりすぎりに見たところ、ホソバミズヒキモにしては少々違う形状をした花穂が水面から出ていた。神戸市のツツイトモを見ているものの半信半疑、同年12月神戸大学の角野研究室へ持参した結果、ツツイトモであることが判明した。これにより、伊丹市での生育は神戸市の生育地より、6年も早い時期に生育を確認していたことになり、兵庫県における最初の産地となった。その後2000年、2001年も生育を確認している。

## そ の 他

伊丹市は兵庫県南東部に位置し、東に猪名川、西に武庫川、中心部には水鳥の観察地として名高

い昆陽池、瑞ヶ池がある。当市北部の西池、黒池はオニバスが出現する池として知られ、毎年生育するなど、阪神間きっての水辺環境に恵まれた地域である。また、市内一部の水田にはデンジソウの生育（1993年10月、水田光雄発見）も見られる。1999年このデンジソウの水田が宅地化することから、市民団体（あーす・いたみ）に働きかけ、市役所の協力等も得られ、保護活動が行われている。オニバスについても毎年観察会が開催され、保護意識が高まってきている。都市化が進む伊丹市に「オニバス」、「デンジソウ」、今回の「ツツイトモ」と、保護上重要な位置にある植物が3種類も生育することは、大変珍しいことと考えている。オニバス、デンジソウの2種類は、保護の対象として、市民（市政）の理解が得られている状況にある。今回の一見見劣りのするツツイトモについて、どのような方策があるのか、悩んでいる状況にある。会員諸氏のご意見をお聞かせ願えれば幸いと存じます。

## 文 献

水田光雄, 1999. 神戸でツツイトモが生育, 水草研究会報 68: 21-22.